

十勝（帯広）に全国でも非常に珍しい国立大学がある。それは、帯広畜産大学である。この大学を色々と調べてみると、この土地にしてこの大学かなどの思いが強くなる。

● 大学の沿革

昭和 16 年に開校した帯広高等獣医学校が現帯広畜産大学の前身である。第一期生は、獣医科 132 名であった。入学者全員、第七師団歩兵第 2 連隊（旭川）に 10 日間入隊。

生徒は帯広市内十勝会館 2 階に仮寄宿した。昭和 17 年に寄宿舎が完成し、総員 240 余名の全寮制大所帯となった。昭和 19 年、文部省直轄学校官制が改正され、帯広獣医畜産専門学校と改称された。更に、昭和 21 年 4 月、帯広農業専門学校と改称され、獣医畜産学科のほか、酪農科と農芸学科が新設された。25 年 5 月、帯広農業専門学校を含めた帯広畜産大学が、誕生し、今日に至っている。

高等獣医生、略して「高獣生」と呼ばれたが、血気盛ん、育ち盛りの青少年である。空腹に耐え切れずに悪戯をしたのであろう。何時しか『高獣生＝猛獣生のニックネームが市民の間に定着』したと畜大沿革史年表にある。何時の時代でも少々ハメを外すのは若者の特権である。そういう経験を通じて世の仕組みを理解し、何は許され、何は許されざるかを学んでいくのだ。喧嘩にもルールがあるのだが、そういうものをも次第に学んでいったのだ。現今、路地や喧嘩をする場もなくなり、限界を知らずして、いきなり極端に走る者が多くなったことか嘆かわしいことだ。

● 設立時の逸話

「帯広畜産大学 50 年の歩み」という写真集がある。その 31 ページに、高等獣医学校新設の裏話として、高等農林学校の新設を巡って旭川市と帯広市の間で熾烈な競争があった。

当時としては、多額の負担が必要であったという。学校の名称は、当時の陸軍省が、高等農林の新設に賛成でなく、高等獣医なら支援するとのことで、農林省との協議の結果高等獣医学校となったという。当時の陸軍は、輜重部隊を有し、多数の馬を保有していたので、当然ことながら、獣医も必要としていた。該写真集には、軍刀を持つ陸軍軍人がいるが、配属将であろう。教官も陸軍獣医部の軍人がいたといわれる。十勝は日本有数の馬産地であり、高等獣医学校が創設されたのも頷けよう。今は、畜大がこのように軍隊と密接な関係であったことは忘却されているが、事実は事実として認識すべきである。軍を忌避するが故にあえて事実を見ようとしない、或いは無視するというのは正しくない。

● 人脈管見

自衛隊協力諸団体や管内要路の方々の中には、猛獣生の末裔というか、流れを汲む方が多い。十勝という北の大地は、一大畜産地であり、且つまた大農業基地であることから、斯かる学校が設けられたことは、時宜に当たっていたと言えよう。猛獣生の活躍を期待する。逸材とは書いたからには、個人名を挙げるべきなのだろうが、省略させて頂く。

(参考：帯広市史、とかちの戦後 50 年（十勝毎日新聞社連載記事）、写真集 帯広畜産大学 50 年の歩み 等)